





日蓮宗  
総本山

# 身延山久遠寺

身延山観光協会

〒409-2524 山梨県身延町身延3567 電話0556-62-0502  
e-mail→kankou@minobu.info URL→http://www.minobu.info

身延山中行事

- |      |              |
|------|--------------|
| 新年祝  | 1月1-2・3日     |
| 御節分  | 1月13日        |
| 積尊御  | 2月3日         |
| 宗祖御  | 2月15日        |
| 春季彼岸 | 2月16日        |
| 積尊御  | 3月20日        |
| 立教開  | 4月6・7・8日     |
| 千部宗  | 4月28日        |
| 伊豆御  | 5月3・4・5日     |
| 御更衣  | 5月12日        |
| 開關入  | 6月1日         |
| 開關入  | 6月15・16・17日  |
| 盂蘭盆  | 6月中旬日曜日      |
| 英靈施  | 7月16日        |
| 松葉谷  | 8月18日        |
| 龍口法  | 8月27日        |
| 七面山  | 9月12日        |
| 秋季彼岸 | 9月18・19日     |
| 御更衣  | 9月23日        |
| 御会式  | 10月1日        |
| 円師法  | 10月11・12・13日 |
| 小松原  | 10月25日       |
| 七五三  | 11月11日       |
| 天台大  | 11月15日       |
| 積尊成  | 11月24日       |
| 歳末読  | 12月8日        |
| 除夜の  | 12月31日       |
| 鐘    | 12月31日       |



三門



菩提梯 (ぼだいいてい)

## 身延への道

### ■東京より

- 【電 車】 ◎新宿→中央線→甲府(1時間30分)→甲府→身延線→身延(1時間)  
◎東京→東海道新幹線→新富士(1時間15分)→富士→身延線→身延(1時間)  
※甲府⇄静岡(富士川号)の直通特急あり

【中央高速】 ◎新宿→甲府南IC→身延(3時間)

【東名高速】 ◎東京→新清水IC→身延(2時間20分)

【中部横断自動車道】 ◎名古屋→双葉JCT→増穂IC→身延(3時間30分)

## 身延山案内

(市外局番は 0556)

- ◆身延山 久遠寺 (62)1011(代)
- 身延山 親閻院 (62)0686
- 奥七面山 敬慎院 0556(45)2551
- ◆霊跡 寺 (62)5118
- 上本円実遠慶教満石鏡 寺 (62)5205
- 本円実遠慶教満石鏡 寺 (62)3355
- 正実慶教満石鏡 寺 (62)0036
- 実慶教満石鏡 寺 (62)1483
- 願満石鏡 社 (62)0441
- 妙石鏡 坊 (62)0238
- 鏡 円 坊 (62)0399
- ◆寺院 坊 (62)0358
- 定円大運延蓮 林台光泉寿盛 坊 (62)3031
- 坊 (62)0578
- 坊 (62)0324
- 坊 (62)0560
- 坊 (62)3124

- 大花林坊 (62)0061
- 積善坊 (62)1461
- 山善坊 (62)0408
- 十之坊 (62)0021
- 丈如坊 (62)0418
- 六堂 (62)0419
- ◆旅館案内
- 身延山門前町
- 田中屋 (62)1035
- 玉砂子屋 (62)1001
- 山田屋 (62)0028
- 身延温泉 (62)0046
- 身延駅前通り (62)0156
- 若木屋 (62)1264
- ◆宿坊案内
- 東谷の宿坊 (62)0777
- 場はの坊 (62)0025
- 乘林坊 (62)0014
- 大善坊 (62)0056

- 窪志摩坊 (62)0067
- 中谷の宿坊 (62)0271
- 山本坊 (62)0041
- 松井坊 (62)0022
- 竹之坊 (62)0013
- 恵善坊 (62)0078
- 西谷の宿坊
- 本行坊 (62)0019
- 清水坊 (62)1054
- 麓坊 (62)0071
- 北之坊 (62)0230
- 樋沢坊 (62)0200
- 林蔵坊 (62)0111
- 岸之坊 (62)0072
- 武井坊 (62)0016
- 智寂坊 (62)0149
- 妙石坊 (62)0238
- ◆温泉
- 塩沢温泉 (62)0868

- ◆ペンション
- ペンションこだち (62)2555
- ◆交通案内
- 山交タウンコーチタクシー (62)0082
- 山交タウンコーチバス (62)0064
- 身延タクシー (62)1145
- 身延山ロープウェイ (62)1081
- JR東海身延駅
- 仲町駐車場 (62)0504
- せいしん駐車場 (62)3033
- ◆身延山門前町案内
- 土産品店・商店
- 教報社 (62)0008
- 梅屋瑞光堂 (62)0177
- 紫雲堂 (62)0102
- 望月写真店 (62)0132
- 小松玉軒 (62)0144
- 小松司軒 (62)0210
- 熊王堂 (62)0024
- 三河屋珠数店 (62)0136
- 松屋菓子舗 (62)0043

身延山は、今からおよそ700年の昔、日蓮大聖人がそのた霊山です。

建長5年(1253)4月28日、32歳で房州清澄山上に御開山。日蓮大聖人は、以来鎌倉に伊豆に房州に、さらには死はされた3年間の佐渡御流罪など、わたしたち凡人には想像苦心の20年を送られました。

佐渡御流罪より帰られた大聖人は、幕府に3度目の諫嘆が受け入れられず、「三度いさめて容れられざれば去る

らおよそ700年の昔、日蓮大聖人がその晩年をすごされ  
 4月28日、32歳で房州清澄山上に御開宗を宣言された  
 来鎌倉に伊豆に房州に、さらには死は必定とまでいわ  
 御流罪など、わたしたち凡人には想像もできない御難  
 られました。

帰られた大聖人は、幕府に3度目の諫暁をなされました  
 ず、「三度いさめて容れられざれば去る」との古来の聖

賢にならって、甲斐の国波木井郷の領主、南部六郎実長の招きをいれ、文永11  
 年(1274)6月17日、草深い身延の山に入山され、南部公心づくしの御草庵に入  
 られました。聖人53歳のこの時を身延山の開創紀元としています。

南部公は弘安4年には18米四方の大堂を建設し、大聖人は初めて身延山妙  
 法華院久遠寺と御命名になり、「日蓮が弟子檀那等はこの山を本として参るべ  
 し、これ即ち霊山の契なり」と述べられ、この山はお釈迦様が法を説かれたイン  
 ドの霊鷲山にも劣らぬ名山であると称され、こよなく愛されたのです。又、身延山  
 の四季は素晴らしく、春の桜、秋の紅葉は特に秀でています。



菩提梯 (ぼだいてい)



本堂 祖師堂



五重塔

府→身延線→身延(1時間)  
 5分)→富士→身延線→身延(1時間)

(30分)

■関西より

【電 車】◎大阪→東海道新幹線→新富士(2時間50分)  
 →身延(1時間) ※静岡より直通特急あり

【東 名 高 速】◎小牧IC(東名高速道)→新清水IC→身延(3時間)

【直通中央高速バス】◎新宿↔身延(3時間20分)

◆ペンション

ペンションこたち (62)2555

◆交通案内

山交タウンコーチタクシー (62)0082  
 山交タウンコーチバス (62)0064  
 身延タクシー (62)1145  
 身延山ロープウェイ (62)1081  
 JR東海身延駅  
 仲町駐車場 (62)0504  
 せいじん駐車場 (62)3033

◆身延山門前町案内

■土産品店・商店

教 報 社 (62)0008  
 梅屋瑞光堂 (62)0177  
 紫 雲 堂 (62)0102  
 望 月 写 真 店 (62)0132  
 小 玉 屋 (62)0144  
 松 司 軒 (62)0210  
 熊 王 堂 (62)0024  
 三 河 屋 珠 数 店 (62)0136  
 松 屋 菓 子 舗 (62)0043

みやげ処かわい (62)6025  
 甘 養 亭 (62)0029  
 新 玉 屋 (62)0053  
 熊王土産品店 (62)0326  
 尾張屋商店 (62)0178  
 浪花屋仏具店 (62)0200  
 稲葉製麺 (62)0239  
 若松屋仏具店 (62)0145  
 英 玉 堂 (62)0023  
 玉 田 屋 (62)0081  
 みのや仏具店 (62)0312  
 天 洋 堂 薬 局 (62)0048  
 魚 市 (62)0015  
 矢 野 商 店 (62)0121  
 山 田 電 気 商 会 (62)0147  
 池 上 商 店 (62)1658  
 ク オ ン 薬 局 (62)0261  
 仙 洞 田 呉 服 店 (62)0065  
 遠 藤 商 店 (62)0410  
 み や げ 館 (62)0248  
 と う よ う 軒 (62)0750  
 あ たら し や (62)1714  
 南 天 の 郷 (62)0250

三 河 屋 茶 舗 (62)0231  
 一宮珠数仏具店 (62)0128  
 松 本 屋 生 花 店 (62)0139  
 武 州 屋 (62)0331  
 池 上 写 真 館 (62)4001

■飲食店

港 屋 食 堂 (62)0233  
 喫 茶 蓮 華 庵 (62)0180  
 河 内 屋 食 堂 (62)0148  
 平 多 屋 食 堂 (62)0020  
 山 田 屋 食 堂 (62)0205  
 玉 川 楼 (62)0026  
 食事処しのはら (62)0202

◆しょうにん通り案内

■土産品・商店

も ー ど ・ え ・ ぎ ゃ ら り - い わ さ (62)1255  
 山 梨 水 晶 本 店 (62)1161  
 栄 昇 堂 (62)1247  
 宮 田 屋 (62)1272  
 ぶ ど う 屋 (62)1241  
 高 見 沢 商 店 (62)1181

■飲食店

コーヒー食事処 あつふる (62)1266  
 食事処ゆたか屋 (62)1206  
 居酒屋はっかす (62)2800

◆梅平・豊岡案内

■商店

梅 田 屋 呉 服 店 (62)0075  
 菊 屋 写 真 (62)1188  
 デイリーストアー 梅平店 (62)0344  
 田 中 屋 給 油 所 (62)0116  
 池 上 看 板 塗 装 店 (62)0217  
 ゆ ば 工 房 五 大 (62)3535

■飲食店

手打そば処あずみの (62)3401  
 中華料理華宴 (62)2788  
 ゆ ば の 里 (62)6161

総門をめぐり本堂・祖師堂を参拝

時を越え



## 身延山 五重塔

かつて身延山には、法華経信仰の象徴として五重塔が輝いていました。山上にそびえる堂塔伽藍は、さながら「天竺の霊山をこの地に移し置かれたる」姿であり、「この山をもととして参るべし」との日蓮上人ご遺訓具現の道場であったと偲ばれます。

万延元(1860)年に再建された五重塔が焼失した後、五重塔の再建は長きにわたり悲願となっていました。このたび、伝統的工法と現代技術の粋を結集し、元和5(1619)年身延山に初めて建立された五重塔を復元するに至りました。総高126尺(38.2m・国内第2位)、第一層の総間は18尺6寸(5.6m)という壮大な塔の心柱には、永年安泰の祈りを込め、身延山の峰より切り出した樹齢500年の霊木が納められています。

この塔の完成により明治8(1875)年の大火災以来の復興も、ようやく終焉を迎えました。

日蓮宗総本山にふさわしく雄大にして華麗な五重塔と、創建時の姿さながらに整備された身延山を、心行くまでご堪能ください。

身延町身延山観光協会

# 身延山

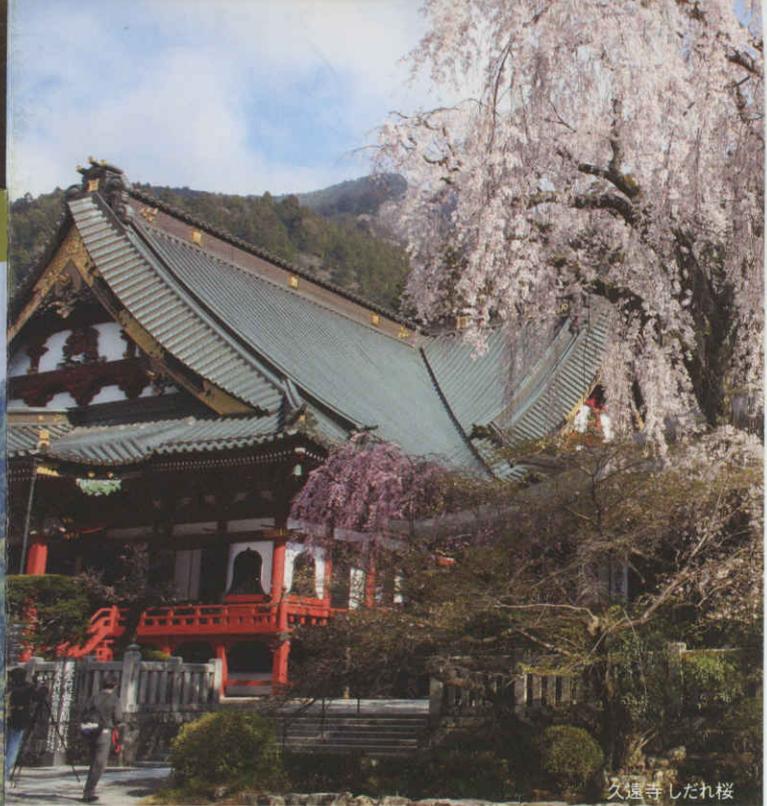


をめぐり本堂・祖師堂を参拝

時を越え甦る 五重塔



遙かなる時を越え 霊験もあらたかに蘇る



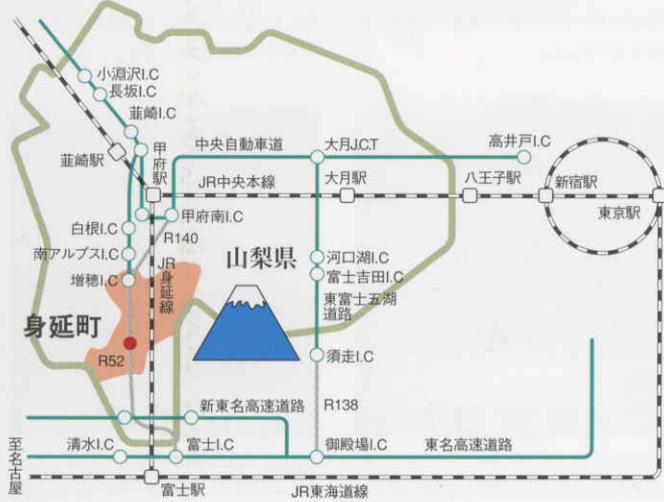
久遠寺しだれ桜

### 東京方面より

- 電 車◎新宿 (JR中央本線=特急・1時間40分)→甲府 (JR身延線=特急・50分)→身延  
 ◎東京 (JR東海道新幹線・1時間15分)→新富士/富士 (特急ふじかわ号・50分)→身延  
 中 央 道◎直通中央高速バス・新宿→(3時間20分)→身延  
 ◎東 京→甲府南IC→鯉沢→R52→(3時間)→身延  
 東名高速◎東 京→富 士IC→芝川→R52→(3時間)→身延

### 関西方面より

- 電 車◎新大阪 (JR東海道新幹線・2時間50分)→静岡 (特急ふじかわ号・1時間)→身延  
 中央道・中部横断道◎小 牧IC→増 穂IC→鯉沢→R52→(4時間30分)→身延  
 東 名 高 速◎小 牧IC→清 水IC→興津→R52→(3時間30分)→身延  
 新 東 名 高 速◎ 新清水IC→R52→(40分)→身延



七面山山頂



身延町身延山観光協会

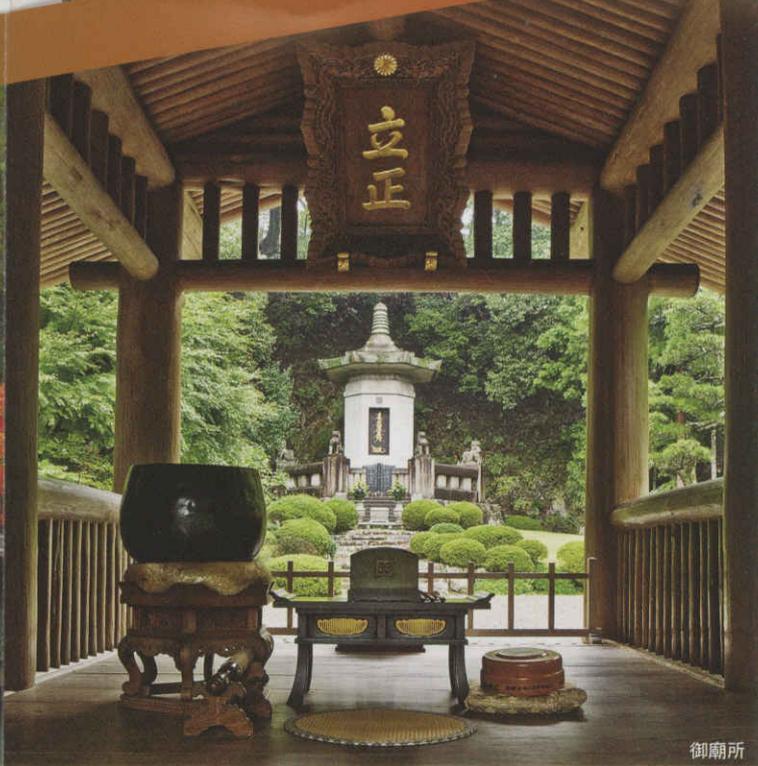
〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3567

TEL/FAX.0556-62-0502 kankou@minobu.info

<http://www.minobu.info>



御廟所 紅葉



御廟所

## 豊かな自然が織り成す、四季の風景

豊かな自然に包まれた静寂の地 身延山久遠寺。  
 一斉に萌える山々に、樹齢数百年を超える桜の銘木が彩りを添える春  
 若葉が青々と茂り、野鳥の声も涼しげに響く夏の木立  
 そびえ立つ杉の古木と、極彩色に色づいた広葉樹も艶やかな秋  
 そして、真白な雪化粧も眩しい冬。  
 信仰の街が映し出す四季折々の表情が、訪れる人を魅了します。



開闢会



御会式

■ **思親閣** 奥の院思親閣は、追慕の念抑さえ難き日蓮大聖人が、遙か故郷房州の空を拝し、追考のまことを捧げた地。大聖人入滅の翌年、高弟の日朗上人が亡き師の篤い孝心を後世に伝えるべく山頂に一字を建立したのが起源とされます。参道両脇にそびえる老杉は、大聖人が両親追善のため自ら植樹したと伝えられています。

思親閣

## 身延山年中行事

新年祝祷会	1月1・2・3日	英霊施餓鬼会	8月18日
御年頭会	1月13日	松葉谷御法難会	8月27日
節分会	2月3日	龍口御法難会	9月12日
釈尊御涅槃会	2月15日	七面山大祭	9月18・19日
宗祖御降誕会	2月16日	秋季彼岸施餓鬼会	9月23日
春季彼岸施餓鬼会	3月20日	御更衣式	10月1日
釈尊御降誕会	4月6・7・8日	御会式	10月11・12・13日
立教開宗会	4月28日	円師会	10月25日
千部会	5月3・4・5日	小松原御法難会	11月11日
伊豆御法難会	5月12日	七五三祝祷会	11月15日
御更衣式	6月1日	天台大師会	11月24日
開闢会	6月15・16・17日	釈尊成道会	12月8日
開闢会入山行列	6月中旬日曜日	歳末読誦会	12月31日
盂蘭盆施餓鬼会	7月16日	除夜の鐘	12月31日

■ **七面山敬慎院** 永仁5(1297)年9月19日、日蓮大聖人の高弟日朗上人と南部実長公によって山頂に法華経信者の守護神七面天女が祀られたことが起源と伝えられる敬慎院。院内には参籠の用意があり、宿泊することができます。

七面山敬慎院



総門をめぐり本堂・祖師堂を参拝

時を越え甦る 五重塔

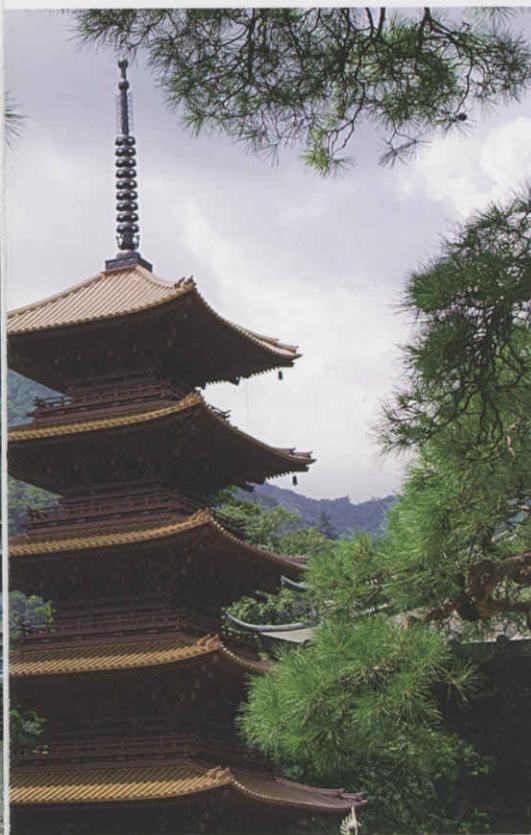
心の聖地 身延山



人が奉られている祖師堂は、菩提梯を登った朱塗りの建物。大聖人の「今生より未来妻むべく候」との御言葉から、祖師の神霊閣とも呼ばれています。中央厨子内に祖師の両親の霊牌と直弟子六老僧の像

堂を真一文字に結ぶ287の石段からなる続くかのごとき急勾配の石段は、南無妙七区分されています。また、両側にそびえ道地に指定されております。上り口右手にの地に招いた南部実長公の銅像。かたわ二つの参道が境内へと続いています。

三門



### 歴史と信仰が息づく心の聖地

#### 身延山 久遠寺

鎌倉時代、疫病や天災が相次ぐ末法の世にあって、「法華経」をもってすべての人々を救おうとした日蓮上人は、3度にわたって幕府に進言するも受け入れられず、信者であった領主南部実長公の招きに応じ、文永2(1274)年当地に入山されました。以来この地を生涯の住処とされ、旅の途上で入滅された折も「いづくにて死に候とも墓をば身延山に立てさせ給へ」のご遺言により遺骨は身延山に奉ぜられ、心霊とともに祀られたと伝えられます。

日蓮上人入滅より700有余年。その間、落雷・火災と2度にわたる焼失を経てもなお、法灯は連綿と絶えることなく、総本山として広く門徒の信仰を集めるはもとより、年間を通じて全国各地から参拝者や観光客が訪れる、心の聖地となっております。



■ **本堂** 総坪数970坪、間口32m、奥行51m。壮嚴なる天蓋、幢幡、吊灯笼に飾られた、身延山独特の佇まいに、9mに及ぶ須弥壇上の本尊一塔兩尊四士を始め、ほぼ等身大の仏像15体が奉安されています。天井画は、日本画壇の重鎮加山又造画伯による勇壯な姿の墨龍です。地階の宝物館では、身延文庫が所蔵する国宝、重要文化財、指定文化財の展示に加え、企画展も開催されます。

加山又造画伯による勇壯な墨龍の天井画



■ **三門** 本堂の真正面に位置し、空・無相・無願の三解脱門を経て涅槃に至る仏教の摂理に基づき、本堂を涅槃に擬し、その正面の門を三解脱門に例え三門と称しています。日本三大三門のひとつに数えられる身延山の三門は、間口23m、奥行き9m、高さ21mの総けやき造り。楼上には、16体の羅漢像が奉安されています。創建は1642年ですが、数度の火災で焼失し、現在の三門は明治40(1907)年の再建です。

■ **五重塔** このたび、元和5(1619)年身延山に初めて建立された五重塔が復元されました。総高126尺(38.2m・国内第2位)、第一層の総間は18尺6寸(5.6m)という壮大な塔の心柱には、身延山の峰より切り出した樹齢500年の霊木が納められています。この塔の完成により、全山ことごとく烏有に帰した明治8(1875)年の大火災以来の復興も、ようやく終焉を迎えました。



五重塔

■ **総門** 国道52号線に面した身延山の玄関で、参詣者がまぎらなければならぬ関門。日蓮大聖人御入山の折出迎への南部実長公と対面した「逢島」の遺跡に、寛文5(1665)年28世日叟上人によって建立。扁額の「開會関」は36世日潮上人の筆により、また、入って左手の石垣には、大聖人が御入山の折に休息されたと言われる自然石が残されています。



# 身延町の 名刹

## 円実寺

身延山周辺の領主であった南部実長公の本城跡。聖人の身延入山の際にここに立ち寄り、わらじを脱いでひと休みしたことから、「日蓮聖人わらじ脱ぎの霊場」として有名です。

## 本国寺

池上へ出立の日、宿泊された大聖人は、祈念して本堂正面にお葉付き銀杏を植えられました。

## 正慶寺

大聖人御入山の折、休息をとり、粟飯を召し上がったの言い伝えから「粟飯寺」と呼ばれます。

## 上澤寺

大聖人が、自らの身代りに死した白犬の墓標に樹てられた杖が成長し、さかさ銀杏になりました。

## 大野山本遠寺

約400年前、お万の方によって建立された將軍家お墨付の寺院。本堂と鐘桜堂が、国の重要文化財に指定されています。

## 実教寺

高台で水の便がよくないこの地に大聖人が桜の根に杖を差し清水が湧き出たと伝えられます。

## 大光坊

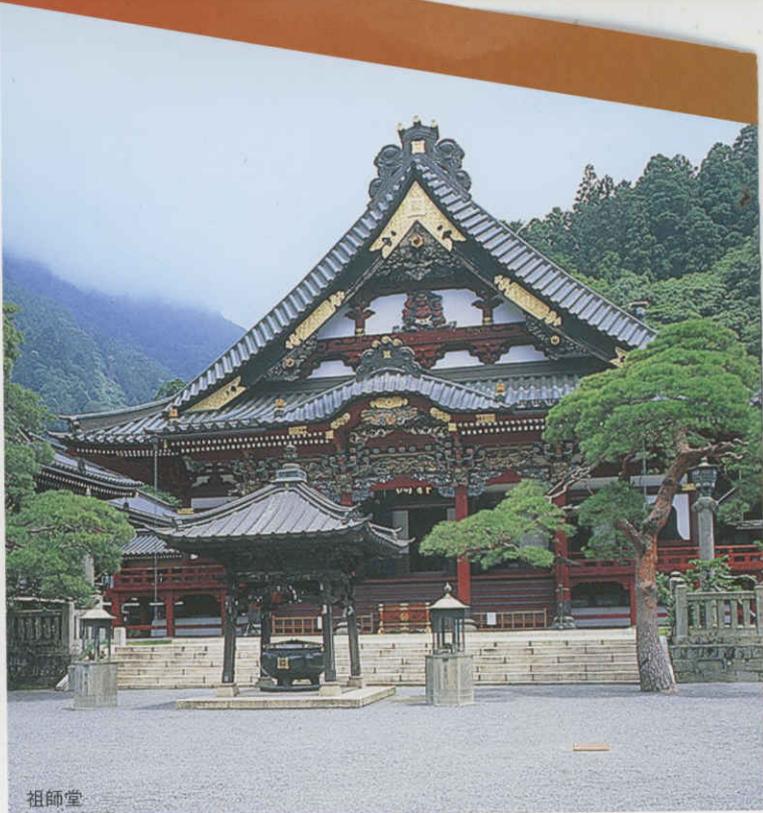
身延山を大聖人のお姿に見立てると、眼に相当する寺院。大聖人ご自作の大黒尊天が奉られています。

## 鏡円坊

南部実長公が晩年を過した館跡。樹齢400年以上のシダレザクラの巨木が、見事な花を咲かせます。

## 妙石坊

日蓮上人が開いた寺院で、現在は西谷の宿坊。大聖人が最初の説法をされた高座石があります。



祖師堂

■ **祖師堂** 日蓮大聖人が奉られている祖師堂は、菩提梯を登って右手の一際鮮やかな朱塗りの建物。大聖人の「今生より未来際までも心は身延山に棲むべく候」との御言葉から、祖師の神霊の棲む御堂として棲神閣とも呼ばれています。中央厨子内に祖師の尊像、その左右に祖師の両親の霊牌と直弟子六老僧の像が奉られています。

■ **菩提梯** 三門と本堂を真一文字に結ぶ287の石段からなる参道。高さ104m、天上に続くかのごとき急勾配の石段は、南無妙法蓮華経になぞらえて七区分されています。また、両側にそびえる老杉は仏法僧の繁殖地に指定されています。上り口右手に立つのは、大聖人をこの地に招いた南部実長公の銅像。かたわらから男坂、女坂という二つの参道が境内へと続いています。



菩提梯



# 身延山参拝のしおり

日蓮宗総本山

身延山久遠寺

## 交通のご案内

**東京方面より 電車で** 新宿 (JR中央本線=特急) → 甲府/約1時間40分  
甲府 (JR身延線=特急) → 身延/約1時間

東京 (JR東海道新幹線) → 新富士/約1時間15分  
新富士 (JR身延線=特急) → 身延/約1時間  
※新富士-富士駅間は、バス・タクシー等をご利用下さい。

中央道で 東京 (中央道) → 甲府南IC → 諏沢 → 国道52号 → 身延/約2時間40分

東名・新東名高速で 東京 → 新清水IC → 国道52号 → 身延/約2時間50分  
※富士川ISAスマートIC (ETC専用) もご利用いただけます (大型車等を除く)。

**関西方面より 電車で** 新大阪 (JR東海道新幹線) → 静岡/約2時間30分  
静岡 (JR身延線特急) → 身延/約1時間20分

中央道で 小牧IC → (中央道・中部横断道) → 増穂IC → 諏沢 → 国道52号 → 身延/約4時間30分

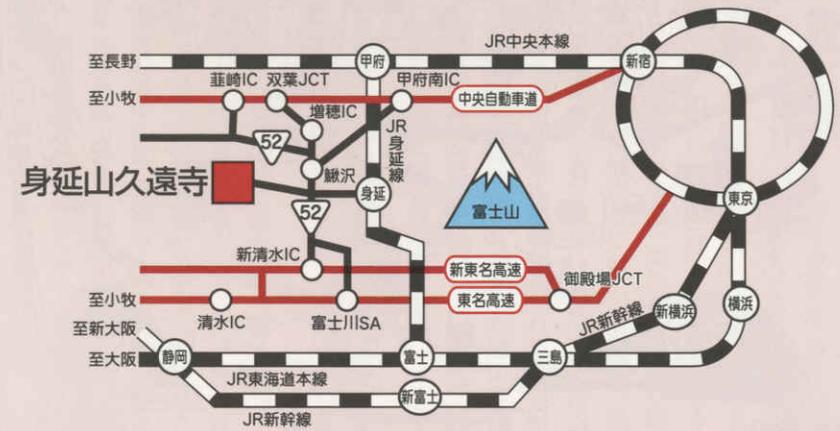
東名高速で 小牧IC → 新清水IC → 国道52号 → 身延/約3時間30分  
※富士川ISAスマートIC (ETC専用) もご利用いただけます (大型車等を除く)。

※JR身延駅から 身延山まで路線バスが運行しております。もしくはタクシー等をご利用下さい。

※身延山バス停から 身延山久遠寺境内まで乗合タクシーが運行しています (土日・祝日のみ)。

## 高速バス「身延山～新宿線」「甲府～身延 (梅平)～静岡線」のご案内

山梨交通と、京王バスの共同運行により、新宿から身延山までを約3時間半でつなぎます。  
山梨交通としましてはジャストラインにより、甲府-身延、静岡-身延間をそれぞれ約1時間半でつなぎます。  
詳細 (運賃・運行時間・乗降場所・ご予約など) は山梨交通ホームページ (<http://yamanashikotsu.co.jp/>)



## 身延山久遠寺

〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延3567  
電話 0556-62-1011 FAX 0556-62-1094  
URL <http://www.kuonji.jp/>

月刊誌「みのぶ」をご購読下さい。購読料 年間3,000円 (送料共) 振り替え口座 00490-7-506

## 縁起

身延山久遠寺は、正式には身延山妙法華院久遠寺と称します。鎌倉時代に日蓮聖人によって開かれたお寺で日蓮宗の総本山であり、また祖師日蓮聖人のお山ということから、祖山とも呼ばれております。

当時、身延山は甲斐国波木井郷・南部実長公の領地でありました。三度幕府をいさめながら、受け入れられなかった日蓮聖人は「三度聞き入れられず山林に身をかくせ」との古事にしたがい、実長公の招きによって文永十一年（一二七四）五月十七日に入山され、一か月の甲斐巡行の後六月十七日御草庵を建てて住まわれましたので、この日を身延山開闢の日としております。以来、在山九か年の間、日蓮聖人は身延山から一歩も外に出られることはありませんでした。

法華経は、一切経の総合經典と言われ、すべての人々の救済をめざした御経であります。日蓮聖人はその法華経に生涯をささげられました。晩年を過ごされたこの身延山は、ひたすら法華経の読誦と、法華経の精神を受け継ぐ門弟たちの教育に心血をそそがれた尊い地であることから、このお山をインドの靈鷲山と同様に、仏様たちがお住居になる所であると教示されております。

弘安五年（一二八二）九月八日病氣療養のため、また両親の墓参のため常陸国（茨城県水戸市加倉井）へ向け身延山を出立されました。しかし、その途上武蔵国池上（東京都大田区池上）において六十一歳の生涯を閉じられました。

御臨終に際し「いづくにて死に候とも墓をば身延の沢にせさせ候へく候」との遺言により御遺骨は身延山に奉ぜられ、ご精神とともに祀られました。また、この山にお参りすることによって、人々は前世からの罪はたちまち消えさり、逆に善根を積むことになると教示され「日蓮が弟子檀那等はこの山を本として参るべし」との遺言されております。

日蓮聖人入滅より実に七百有余年、廟墓と法灯は歴代住職（法主）によって、絶えることなく守護され今日におよんでおります。日蓮聖人が法華経を読誦され、法華経に生命をささげられた靈境 身延山久遠寺は、総本山として日蓮聖人門下の人々の篤い信仰を集め、また宗門のみならず広く日蓮聖人を仰ぐ人々の心の聖地として、日々参詣者の絶えることがありません。

## 身延山中行事

○印は三大会 天童音楽大法要

一月一日〜三日 新年祝禱会

一月十三日 御年頭会

二月節分日節分会・豆撒き

二月十五日 釈尊御涅槃会

二月十六日 宗祖御降誕会

三月彼岸中日 春季彼岸施餓鬼会

○四月六日〜八日 釈尊御降誕会

四月二十八日 立教開宗会

五月三日〜五日 千部会

五月十二日 伊豆御法難会

六月一日 夏衣御更衣式

○六月十五日〜十七日 身延山開闢会

六月中旬 御入山行列

七月十六日 孟蘭盆施餓鬼会

八月十八日 英霊施餓鬼会

八月二十七日 松葉が谷御法難会

九月十二日 龍口御法難会

九月彼岸中日 秋季彼岸施餓鬼会

十月一日 冬衣御更衣式

○十月十一日〜十三日 御会式

十月二十五日 円師会

十一月十一日 小松原御法難会

十二月中旬の日曜日 七五三祝禱会

十二月三十一日 歳末読誦会

# 諸堂案内

**総門** 日蓮聖人が、身延入山の折、南部実長公とお会いになられた「逢島」の遺跡に立つ門。二十八世日蓮上人が、寛文五年（一六六五）に建立したもので、門に掲げられる「開会閣」の扁額は、三十六世日蓮上人の筆によるもの。開会とは、一切の人々は法華経の信仰によって仏となるという意味から、この門を入ることによって仏さまの世界に入っていくことを示しています。

## 本堂

明治八年（一八七五）一月の大火で焼失して以来、その再建念事業として、八十八世日蓮上人代に再建を發願し、日康上人を経て九十世日勇上人代の昭和六十年五月に入仏落慶式が行われました。総坪数九七〇坪（三二〇一㎡）間口十七間半（三二二㎡）奥行二十八間（五十一㎡）。御本尊は江里宗平仏師の作で、外陣の天井画「墨龍」は加山又造画伯の畢生の力作です。なお地階の宝物館には久遠寺所蔵の宝物が展示されており。

## 菩提梯

二十六世日蓮上人代の寛永九年（一六三三）に、佐渡ヶ島の住人、仁蔵の發願によって起工、完成したものです。高さ一〇メートルで、三門と本堂を一文字にむすぶ一八七段の石段は、南無妙法蓮華経になぞらえて七区画に分かれています。菩提梯とは覺りにいたる階段のごとく、この石段を登り切ると、涅槃の本堂に至ることから、覺りの喜びが生ずることを意味しています。

## 五重塔

平成十六年に九十一世日光上人が再建を發願され、九十二世日總上人代の平成二十年（二〇〇八）に、明治八年（一八七五）以来一三三三ぶりに、創建当時の姿で復元建立されました。塔内初重には、一尊四士の御尊像（体内には御仏舍利を奉安）と日蓮大聖人御尊像が勧請されており。間口三間四面、高さ三十九m。

## 三門

空・無相・無願の三つの門をへて、覺りに至ることから、本堂を覺りの世界に見立て、本堂にいたる正面のこの門を三門と言います。二十六世日蓮上人代の寛永十九年（一六四二）に建立されましたが、焼失し現在の門は明治四十年（一九〇七）に、七十八世日良上人によって再建されました。掲げられる「身延山」の扁額は七十九世日慈上人の筆によるものです。

## 祖師堂

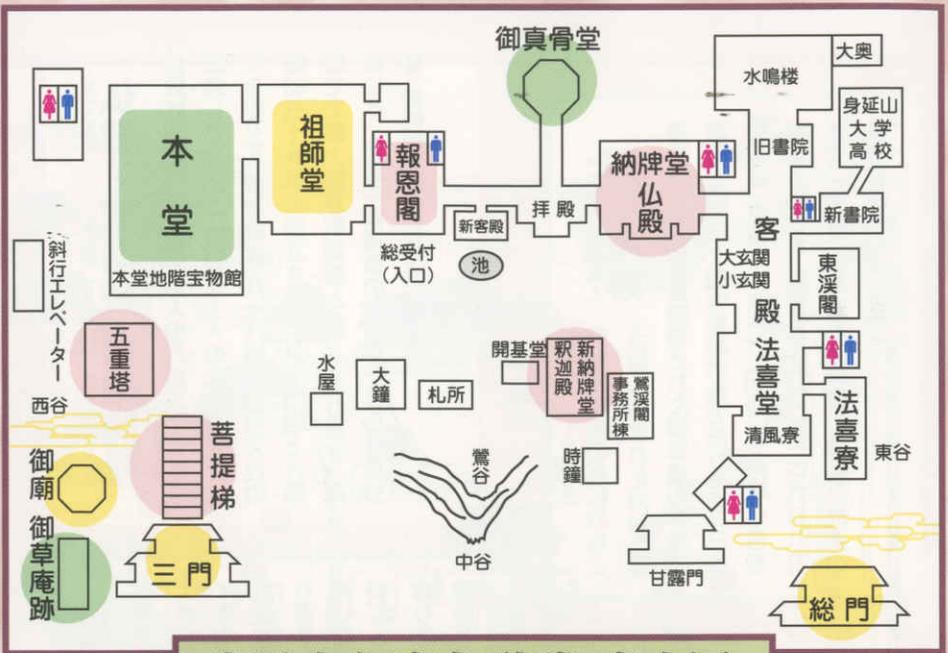
祖師日蓮聖人を御祀りするお堂です。入口には祖師の御魂が棲んでおられるという意味の「棲神閣」（七十四世日鑑上人筆）と書かれた扁額が掲げられています。明治八年（一八七五）二月の大火で焼失し、七十四世日鑑上人代の明治十四年に再建されたものです。中央の宮殿には日蓮聖人像が御祀りされており、内陣虹梁に掲げられている「立正」の扁額は、日蓮聖人の立正大師号にちなんで、昭和六年に天皇陛下より賜った勅額です。

## 御真骨堂

日蓮聖人の御真骨を奉安する御真骨堂は、白亜の八角堂と拝殿からなっております。十一世日朝上人代の文明六年（一四七四）に、西谷から現在の地に移築、増築されますと、法主猊下の守塔の任に配慮して、御真骨も現在の地へ奉遷せられました。現在の八角堂ならびに拝殿は、七十四世日鑑上人代の明治十四年に再建されたもので、八角堂内の荘嚴は善美をつくしたものです。

## 報恩閣

身延山久遠寺の總受付です。立教開宗七五〇年の慶讃事業として九十一世日光上人の發願により平成十四年三月に落成しました。入口前庭には、樹齡四百年を経た枝垂れ桜が参拝者の目を楽しませております。



身延山久遠寺 諸堂 案内図

## 仏殿・釈迦殿 両納牌堂

仏殿は昭和六年、日蓮聖人の六百五十年遠忌を記念して、八十一世日布上人の代に建立されたものです。釈迦殿は、八十八世日滋上人代の昭和五十六年に建立されたもので、地上六階建てで最上階が釈迦殿となっております。両殿には、全国の御信者の御志納になった御分骨・御位牌を安置しております。

## 御草庵跡

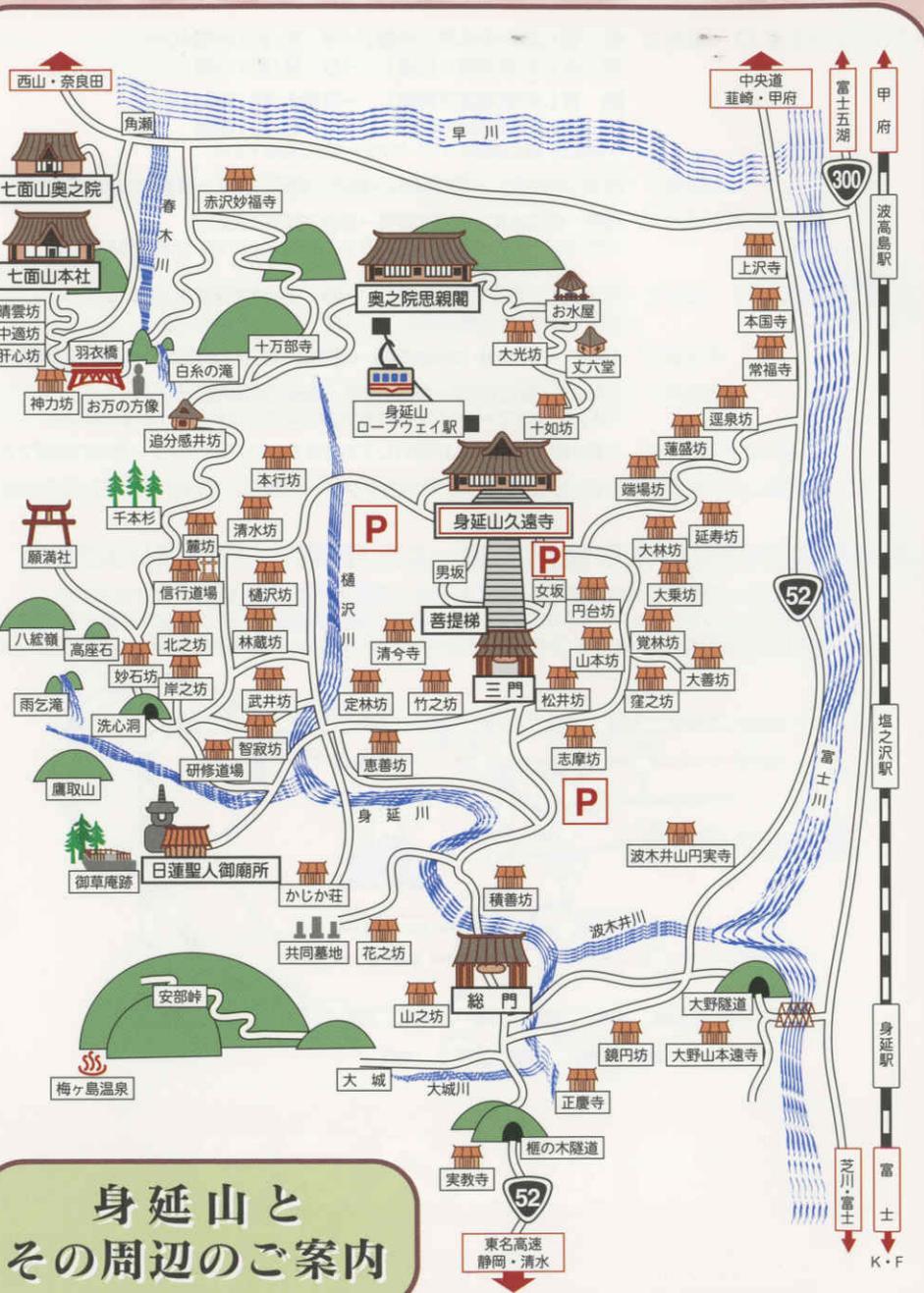
御廟所左手の老杉のもと、玉垣に囲まれた所が、日蓮聖人が九か年御隠棲された御草庵の跡地であり、身延山久遠寺発祥の地であります。日蓮聖人は、文永十一年（一二七四）五月十七日身延に入山され、弘安五年（一二八二）九月八日まで、ここに起居され法華経の読誦と門弟の教育に終始しました。

## 思親閣・七面山

久遠寺の裏山が身延山で山頂は、海拔二五三〇あります。ここは日蓮聖人が登山せられ、故郷である千葉県小湊の御両親様を偲び、追慕された霊跡の地でありますので、奥之院とよばれ思親閣が建てられております。三門より徒歩で五十丁（五、五〇）ロープウェイを利用しますと七分で登詣できます。また身延山より西の方角の山を一つ越えた彼方に七面山があります。海拔一九八〇の山頂には、法華経信徒の守護神であります七面大明神が奉祀されております。七面山は、徳川家康公の御側室でありました養珠院お方の方によって女人禁制が解かれたお山で、山頂の敬慎院には、二千名もの参詣者が参詣できる施設があります。七面山は山頂まで徒歩での登山となります。春秋の彼岸の中日には富士山頂からの御来光を拝することができ、その神々しさは筆舌には尽くしがたいものがあります。

## 御廟所

西谷の地にあり、杉の磨丸太づくりの拝殿、奥の八角塔にせさせ候べく候」との御遺言にしたがって建立された、日蓮聖人の廟墓です。八角塔の塔中には、日蓮聖人の入滅時に建立された五輪の墓が収められ、右手には身延山歴代のお墓が並び、左手には富木常忍の母、阿仏房日得上人、南部美長公の墓があります。日蓮聖人の廟墓ですので祖廟とも称し、恋慕仰する信徒の参詣が絶えません。



身延山とその周辺のご案内



日像菩薩旧跡  
身延山龍華樹院  
しみずぼろ  
**清水房**



清水房案内図



- 身延線身延駅下車  
バス15分(停留所より徒歩10分) / タクシー 15分
- 中央道甲府南インターより60分
- 新東名新清水インターより50分

清水房年中行事

- 春季彼岸施餓鬼会法要 春彼岸明けの日
- 祖廟輪番奉仕 7月頃
- 盂蘭盆会 8月13日～16日
- 七面山大祭登詣 9月18日・19日
- 秋季彼岸
- 日像上人御会式法要 11月13日

附近参拝案内

- 身延山久遠寺 当房より徒歩5分(200m)
- 御草庵 当房より徒歩5分(200m)
- 奥之院思親閣 当房より徒歩2時間(5Km)  
ロープウェイ(片道7分)

日像菩薩旧跡  
身延山 **清水房**  
龍華樹院

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3616番地  
TEL 0556-62-1054  
URL <http://www.shimizubo.org/>



志の半ばどんな難に遭うか分からない、もしかしたら命を落とすこともあるかもしれない…と心に迷いが生じます。そこで小さな小さな庵の傍らに穴を掘り「もし自己の迷いを振り払いこの行いが少しでも成就する可能性があるなら、今掘ったこの穴に水を湧かせて下さい」とお釈迦さま・諸々の菩薩・諸々の善神をお願いをして、一心にお題目を唱え、ちょうど七日にして水がパッと湧き出て、砂が水を得てギュッと固まるが如く京都に向かう覚悟を固められました。この水が湧き出たことをもって「清水房」ともうします。現在は笑顔と感謝の気持ちがこんこんと湧いています。



## 房内紹介



本堂外観



本堂内陣



100畳の大広間



日像上人像



日蓮聖人像



扁額

## 房内宿泊施設案内



本館客室



新館客室



離れ客室



浴場(身延のお山の清水を沸かしています。)



バリアフリー廊下

清水房開基日像上人は六老僧の一人日朗上人の弟子にして、日蓮大聖人の孫弟子でございます。七歳の時より日蓮大聖人より直接お経・法華経の法門を教わり、十四歳の時、日蓮大聖人ご入滅の二日前枕辺に呼ばれ、「そなたは京の都に行って法華経のお題目南無妙法蓮華経を弘め人々の心を救いなさい」と遺命を受け、鎌倉の地にて全身全霊修行に打ち込み、正応五年(1292)10月26日から百日間由比ヶ浜の海水に浸かり、壮絶な水行によりその心身を鍛えました。

由比ヶ浜での水行を修めた後、日蓮大聖人の遺命を果たすべく京都に向かう途中、日蓮大聖人の御廟に出発のご報告を申し上げに身延山に立ち寄りますが、

客室	23部屋
最大収容人数	120人
一泊二食	7,900円
一泊夕食なし	5,900円
一泊朝食なし	6,900円
一泊素泊まり	5,500円

## オリジナルグッズ販売中



オリジナル石版



オリジナルステッカー

ISBN4-89045-129-3

C0193 ¥700E

定価：本体700円(税別)



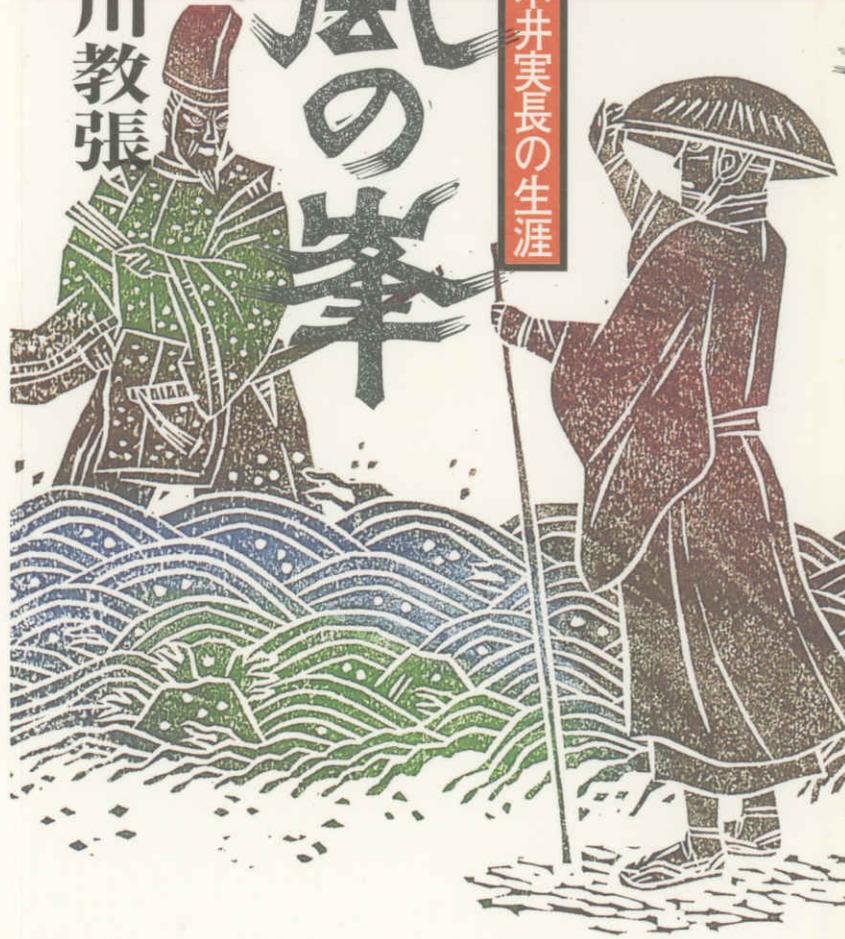
# 風の峯

波木井実長の生涯

波木井実長の生涯

# 風の峯

石川教張



石川教張

日蓮宗新聞社



石川 教張 (いしかわ・きょうちよう)

昭和十六年東京都生まれ。早稲田大学第一文学部史学科卒。

立正大学仏教学博士課程修了。前日蓮宗現代宗教研究所所長。現在、同研究所顧問。東京立正女子教育研究所所長。

日本ペンクラブ会員。杉並区本佛寺住職。

主な著書として「人間日蓮」「日蓮聖人のものがたり世界」

「日蓮聖人の生涯」「女人法華」など多数がある。

◆日蓮宗新聞社の本◆

実長は、立て烏帽子と渋柿色の直垂姿に改めて山麓梅平の一角(今の身延山総門のあたり)で日蓮聖人を出迎え山中に導いた。——身延山は甲斐国南巨摩郡のほぼ中央にある。漫々とせわしく流れくだる富士川。その西岸に並び立つ連峰の東南の一角に身延山は佇立していた。実長には隔々まで知っている山中だ。日蓮聖人をいざない、所々であれこれ説明しながら、東谷を経て、標高一一五〇メートルの山頂に登った。

(本文より抜粋)

石川教張

日蓮宗新聞社

いづくにて死に候とも墓をば身延の沢に、  
日蓮聖人がこよなく愛した  
身延の風光。かつて全山を  
寄進した実長の信仰と生涯。

本体七百円+税

カバー…原田維夫